第7章 「交野の歴史文化」の保存と活用に関する措置

7-1. 基本方針に基づく措置

第5章で設定した課題解決に向けた「5つの基本方針」をもとに、「交野の歴史文化」の保存と活用に関する「13の方針」とその「20の措置」を示します。

課題への対応

基本方針	措 置
方針1：「交野の歴史文化」の把握	
1-1：文化財調査の実施	1：重点遺跡の発掘調査及び整理
1-2：データベースの整備	2：「交野の歴史文化」の悉皆調査及びデータベース化
1-3：市史編纂事業の推進	3：市史編纂に関する調査と続編の刊行
方針2：「交野の歴史文化」の保存	
2-1：文化財の維持保全	4：未指定文化財の指定等の検討
	5：指定等文化財の保存・継承等
2-2：文化財の防災・防犯対策	6：指定等文化財の防災・防犯対策（防災・防犯）
方針3：「交野の歴史文化」の活用	
3-1：体験型プログラムの充実	7：子ども体験教室
	8：「交野の歴史文化」めぐり
3-2：文化財の公開	9：教育文化会館の充実（保存・活用）
	10：文化財の公開
3-3：観光施策との連携強化	11：「交野の歴史文化」体験授業
	12：「交野の文化財」の交野ブランド化への取組み
	13：周遊コースの設定（設定・案内）
方針4：「交野の歴史文化」の周知・啓発	
4-1：情報発信の充実	14：SNSの活用など情報発信の充実
4-2：文化財の周知	15：「交野の歴史文化」を知る機会の創出
	16：文化財講座の開催
4-3：学校教育との連携	17：学校支援の充実
方針5：「交野の歴史文化」の保存・活用のための人づくり・しくみづくり	
5-1：人づくり	18：地区や活動団体への取組み支援（後継者育成・活動支援）
5-2：しくみづくり	19：市内の連携体制の推進
	20：広域の連携体制の推進

本計画は、大阪府文化財保存活用大綱や上位計画の交野市総合計画などを勘案し、「交野の歴史文化」や地域の実情を踏まえ、文化財保護行政としての措置および事業を以下に示します。事業はさらに細区分しています。

基本理念「残して、活かそう交野の歴史文化、つなごう未来、次世代へ」の実現のために、文化財の保存と活用に関する課題を捉え、文化財を総合的・一体的に把握する方法も用い、市民、地区（地域コミュニティ）、各種団体、文化財所有者、市役所等が連携を図り、実現するための10か年計画です。

実施する事業は次のとおりとし、集中して実施する期間を示します。これらの事業は、市の財源のほか、国（文化庁）及び大阪府の各種補助金や地方創生推進交付金などに加えて民間資金も活用し、本計画の実現に取り組めます。

【凡例】
 <事業No> ★…重点事業 <取組主体> ◎…中心になって取組む ○…協力して取組む
 <事業の継続性> ←→ 既存事業 → 新規事業

1：「交野の歴史文化」の把握

「交野の歴史文化」はこれまでに把握した以外にも多数残されていることが予想されます。引き続き調査や整理を進め、その成果を市史として編纂することを目指します。

措置No	事業No	事業名	内容	取組主体（推進機関）					実施期間（R5～R14年度）					
				市民	地区	各種団体	所有者	交野市	1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年目	
1	1-1	重点遺跡の発掘調査及び整理	市街化区域内にある交野郡衙跡及び長宝寺跡の発掘調査及び出土品の整理作業を進め、報告書にまとめます。		○			◎	←→					
2	2-1	文化財の悉皆調査及びデータベース化	近代の美術工芸品（絵画、彫刻、書籍・典籍）など文化財の悉皆調査を実施し、資料のデータベース化を進めます。		○		○	◎	←→					
3	3-1	市史編纂のための調査の継続	社寺・仏閣などに保存されている古文書等の美術工芸品の調査を継続して進めます。		○		○	◎	←→					
	3-2	市史編纂	社寺・仏閣編や考古編Ⅱの市史の編纂を引き続き行います。					◎						←→

2：「交野の歴史文化」の保存

未指定文化財の指定等を進めて「交野の歴史文化」の保存に努めます。

措置No	事業No	事業名	内容	取組主体（推進機関）					実施期間（R5～R14年度）					
				市民	地区	各種団体	所有者	交野市	1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年目	
4	4-1	未指定文化財の指定等の検討	文化財の指定等による保護措置を行います。特に、現在指定等文化財がない郡津地区の石造文化財について検討します。		○		◎	○	←→					
5	5-1	指定等文化財の維持管理	指定等の文化財について、保存状態を把握し、適切な維持管理を推進します。				◎	○	←→					
	5-2	文化財の保存	旧集落の町並みや古き良き景観等の保存に努め、消滅する場合には映像等によるアーカイブとして保存します。				◎	◎	→					

5	5-3	保存活用計画の作成の推進	指定等文化財のうち、特に個人所有の住宅を保存・継承することを目的とし、個別の「保存活用計画」の作成を推進します。					◎	◎	←————→				
6	6-1	指定等文化財の防災対策の促進	所有者への消防設備の設置・点検の指導や市民の指定等文化財に対する防災意識を高めます。(詳細 P95)	○	○			◎	○	←————→				
	6-2	指定等文化財の防犯対策の促進	所有者等への防犯設備の設置・点検の指導や市民と連携した防犯活動の促進を図ります。(詳細 P96)	○	◎			◎	○	←————→				

3 : 「交野の歴史文化」の活用

「交野の歴史文化」を身近に感じる体験や見学できる活用事業を充実させ保存につなげます。

措置 No	事業 No	事業名	内容	取組主体 (推進機関)					実施期間 (R5~R14 年度)					
				市民	地区	各種団体	所有者	交野市	1年目	2年目	3年目	4年目	5~10年目	
7	7-1	親子体験教室	戦国時代体験や機織り体験等から親子で「交野の歴史文化」に触れる機会を設けます。			◎		○	←————→					
8	8-1	「交野の歴史文化」めぐり	市民参加の「交野の歴史文化」をめぐるスタンプラリーやノルディックウォーク等を実施します。			◎		○	←————→					
9	★ 9-1	教育文化会館の修理	「交野市立教育文化会館保存修理計画案策定報告書」により、建設当初の設計図を参考に、建築当時の姿(美観)を復原修理することで、国登録文化財の保存及び魅力の向上を図ります。					◎	←————→					
	★ 9-2	教育文化会館の活用	展示空間を見直し、展示内容のリニューアルやネット環境整備を行い、計画の拠点として活用します。					◎	←————→					
10	10-1	文化財の公開	国・府・市指定等文化財の公開日や時間を増やします。					◎	○	←————→				
11	★ 11-1	「交野の歴史文化」体験授業	かたのツーリズム協議会や、観光協会、商業連合会等と連携し、文化拠点施設を中心に、「交野の歴史文化」の外国人を含む観光客向け体験授業を実施します。	○	○	◎	○	○	←————→					
12	12-1	市内文化財の交野ブランド化への取組み	「吉向松月窯」や「交野節」、「交野木綿」のPRを他部局と連携して行います。		○	◎		○	←————→					
13	13-1	周遊コースの設定	「保存活用区域」を中心に「交野の文化財」を周遊するコースを設定し、パンフレットやマップ作成を行います。	○	○	◎	○	○	←————→					
	13-2	案内板等の設置	「交野の文化財」や周遊コースのための案内板等の設置を外国語併記で行います。	○	○	○	◎	○	←————→					

4 : 「交野の歴史文化」の周知・啓発

情報発信を充実させ、「交野の歴史文化」について市民の理解が深まるよう努めます。

措置 No	事業 No	事業名	内容	取組主体（推進機関）					実施期間（R5～R14年度）				
				市民	地区	各種団体	所有者	交野市	1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年目
14	14-1	情報発信の充実	市民が親しめるような文化財情報を発信するホームページ等にリニューアルします。また、適宜情報を更新します。					◎	←————→				
15	15-1	「交野の歴史文化」のガイドブックの刊行と配布	親子で楽しめるガイドブックを刊行し、小学校等への配布を行います。		○	◎		○	←————→				
	15-2	市民を対象としたワークショップの開催	「交野の歴史文化」を知ることにより、交野への愛着や誇りを深めることを目的としたワークショップを地区毎に行います。	◎	◎	○		○	←————→				
	15-3	郷土史コーナーの充実	公民館や図書館の郷土史コーナーの充実を図ります。		◎			◎	←————→				
16	16-1	文化財講座の開催	若い世代も興味を持てるような交野の歴史文化に関する講座を開催します。			◎		○	←————→				
17	★ 17-1	体験学習の充実	市内小学校の教育文化会館の展示見学や綿繰り体験等の受入れを継続します。			○		◎	←————→				
	★ 17-2	学習支援の充実	遠隔地にある小学校の学習支援のため、学習メニューを開発し、オンライン学習を実施します。			○		◎	←————→				

5 : 「交野の歴史文化」の保存・活用のための人づくり・しくみづくり

「交野の歴史文化」の保存・活用のための人づくり・しくみづくりについては、交野市文化財保護委員・文化財審査委員会委員とも連携して取組みます。

措置 No	事業 No	事業名	内容	取組主体（推進機関）					実施期間（R5～R14年度）				
				市民	地区	各種団体	所有者	交野市	1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年目
18	★ 18-1	文化財保存・活用の担い手の育成支援	地域や活動団体等、担い手の育成をはじめとした取組みを支援し、連携体制を整備します。また市民ボランティアの育成に取組みます。	○	○	○	○	◎	←————→				
	★ 18-2	無形の文化財・無形の民俗文化財の継承	市内の伝統的酒造や窯業などの無形の文化財や、交野節（私市おどり）などの無形の民俗文化財の継承のため、その周知と後継者育成を推進するためのPR活動を含め支援を行います。		◎	◎	○	○	←————→				
19	★ 19-1	本計画の推進体制の確立及び事業推進	地区や文化財保護団体、観光団体、商業団体等と連携した地域機関を設置し、文化財の保存・活用事業を進めます。		○	○	○	◎	←————→				
	★ 19-2	相談窓口の充実	青年の家に窓口を置き、文化財所有者や市内の文化財活動団体との各種文化財相談を行います。					◎	←————→				

20	20-1	周辺の自治体や大学等との連携体制の推進	周辺自治体との広域連携の体制整備を進めます。 また近隣の大学や博物館等との連携により学術研究を推進します。						◎	←	→				
----	------	---------------------	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	--	--	--

【重点事業の考え方】

本市が「人づくり・しくみづくり」に重点を置いた「交野の歴史文化」の保存・活用を進めるためには、文化財の周知や市民の活動の拠点となる「拠点整備」が必要と考え、以下の重点事業を実施します。

拠点整備	本計画実施のための拠点となる施設の整備が重要です。本市においては、「交野市立教育文化会館」がその役割を担います。小学校への学習支援などのため、整備が必要です。また教育文化会館を中核に、市内各所の文化拠点施設を結びつけ利用します。
重点事業 (再掲)	<p>★9-1 教育文化会館の修理 「交野市立教育文化会館保存修理計画案策定報告書」により、建設当初の設計図を参考に、建築当時の姿(美観)を復原修理することで、国登録文化財の保存及び魅力の向上を図ります。</p> <p>★9-2 教育文化会館の活用 展示空間を見直し、展示内容のリニューアルやネット環境整備を行い、計画の拠点として活用します。</p> <p>★11-1 「交野の歴史文化」体験授業 かたのツーリズム協議会や、観光協会、商業連合会等と連携し、文化拠点施設を中心に、「交野の歴史文化」の外国人を含む観光客向け体験授業を実施します。</p> <p>★17-1 体験学習の充実 市内小学校の教育文化会館の展示見学や綿繰り体験等の受入れを継続します。</p> <p>★17-2 学習支援の充実 遠隔地にある小学校の学習支援のため、学習メニューを開発し、オンライン学習を実施します。</p>

人づくり・しくみづくり	文化財を保存・継承する担い手が減少しており、それに対応するための人づくり・しくみづくりが重要です。周辺市にはない、交野市の特色でもある無形文化財・民俗文化財を保護育成します。窓口を設置し、庁内横断の必要な場合でも相談業務のワンストップ化を目指します。
重点事業 (再掲)	<p>★18-1 文化財保存・活用の担い手の育成支援 地域や活動団体等、担い手の育成をはじめとした取組みを支援し、連携体制を整備します。また市民ボランティアの育成に取組みます。</p> <p>★18-2 無形の文化財・無形の民俗文化財の継承 市内の伝統的酒造や窯業などの無形の文化財や、交野節(私市おどり)などの無形の民俗文化財の継承のため、その周知と後継者育成を推進するためのPR活動を含め支援を行います。</p> <p>★19-1 本計画の推進体制の確立及び事業推進 地区や文化財保護団体、観光団体、商業団体等と連携した地域機関を設置し、文化財の保存・活用事業を進めます。</p> <p>★19-2 相談窓口の充実 青年の家に窓口を置き、文化財所有者や市内の文化財活動団体との各種文化財相談を行います。</p>

7-2. 関連文化財群で実施する措置

第6章で設定した「関連文化財群」の6つのテーマに関する保存・活用の課題と方針、措置・関連事業について、詳細な説明のため枝番号を付して示します。

テーマ①交野の王墓と鉄器生産（目的：王墓の保護と周知）

★…重点事業

項目	内容
保存・活用の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の不十分な遺跡や古墳があります。 ・古墳や鉄器生産関連遺跡の保存・整備がなされていません。 ・古墳や遺跡に対する市民の認知度が低いです。
保存・活用の方針	鍋塚古墳を含む森古墳群の発掘調査を進め、古墳の実態を明らかにして指定文化財への検討を進めます。その上で周辺の森林を含め適切な維持管理を進め、森古墳群、交野車塚古墳群、寺古墳群の王墓めぐりや文化財講座を実施することで、「交野の王墓と鉄器生産」への関心を高めます。
措置・関連事業	4-1-1 文化財の指定等の検討（森古墳群等） ★11-1-1 交野の王墓に関連した体験授業（観光・商業団体・地区等との連携） 16-1-1 文化財講座の開催（森古墳群等）

テーマ②天野川と七夕伝承（目的：交野の七夕伝承の周知）

項目	内容
保存・活用の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・機織り神社の「七夕祭」は、広く知られていますが、天野川にも近く、古代の遺跡もみられる郡津地区周辺の文化財や伝承については認知度が低いです。 ・機織り教室の活動は、小学校の体験学習などで活用されていますが、市民への周知は低く、さらなる情報発信が求められます。
保存・活用の方針	郡津地区の文化財の指定を推進します。また、よく知られている「七夕伝承」を糸口にして、交野郡司の伝承なども広めるとともに、市内外の関係団体等とも連携して、関連文化財群を活用した取組み、天野川の自然・歴史・文化の保全や長宝寺跡（郡津神社）周辺の文化財の保存活動を促進します。また、「七夕伝承」や「機織り教室」の活動については、親子向けの体験教室を設けるなど、より一層の周知を図るとともに、魅力付けを試みます。
措置・関連事業	4-1-2 文化財の指定等の検討（郡津地区の文化財） 7-1-1 「七夕伝承」を活用した親子体験教室、7-1-2 「交野木綿」を活用した親子体験教室 ★11-1-2 天野川と七夕伝承に関連した体験授業（観光・商業団体・地区等の連携） 12-1-1 交野木綿のPR（交野ブランド化）

テーマ③巨石信仰と社寺伝承（目的：交野の自然と融合した文化財の保護と周知）

項目	内容
保存・活用の課題	交野山山頂の観音岩をはじめとして、市内の巨石の存在については広く知られていますが、それに関わる社寺などに関する文化財については市民に十分認識されていないものも多くあります。
保存・活用の方針	既に周知されている観音岩などの巨石をきっかけとして、巨石信仰めぐりなど山間部の文化財の迫力を体感できる探訪機会を創出することにより、文化財群の関連性を周知し、一体の「交野の歴史文化」としての価値を認識できる取組みを進め、保存機運を促進します。特に年間の観光客数が多い磐船峡（府名勝）を重点対象とします。
措置・関連事業	4-1-3 文化財の指定等の検討（交野山観音岩等） 10-1-1 文化財の公開（磐船峡等） ★11-1-3 交野の巨石に関連した体験授業（観光・商業団体・地区等の連携）

テーマ④交野の城と安見氏の記憶（目的：私部城の保護と周知）

項目	内容
保存・活用の課題	<ul style="list-style-type: none"> 私部城跡は市指定文化財としての保全が図られ、一定の周知が進んでいるものの、認知度は低く、潜在的な魅力を活用できていません。 市民、市民団体、観光協会や商業連合会等の多様な関連団体との連携ができていません。
保存・活用の方針	私部城主安見右近が江戸時代の三大砲術「安見流砲術」の創始者であることや、関連文化財群の周知のため公開を進め、市民の城跡の保存活動への参加機運を高めます。また、観光協会や商業連合会と協働した室町～江戸時代にかけての講座などの取組みや、私部城跡を拠点とした私部をめぐるスタンプラリーを行い、まちづくりや地域の活性化に資する保存・活用へつなげます。
措置・関連事業	7-1-3 私部城跡を活用した親子体験教室 8-1-1 「私部文化財保存活用区域」めぐり 10-1-2 文化財の公開（私部城跡） ★11-1-4 私部城跡周辺の文化財体験授業（観光・商業団体・地区等との連携） 16-1-2 文化財講座の開催（私部城跡等）

テーマ⑤徳川支配と伝統的な町並みの成立（目的：伝統的町並みの保護と周知）

項目	内容
保存・活用の課題	北田家住宅などが指定等文化財として保存されていますが、公開のための環境整備や、近世のたたずまいを残す町並みの維持が課題です。また、星田地区が徳川家康ゆかりの地であることの周知が進んでおらず、町並みの維持も課題です。
保存・活用の方針	北田家住宅や山野家住宅などの指定等文化財の公開と町めぐりをきっかけとして、近世のたたずまいを残す町並みを活用した観光機会の創出を図り、文化財保存の取組みを促します。また、スタンプラリーツアーなどの文化財を巡る事業や情報発信を通じて、徳川家康ゆかりの地としての星田地区の魅力を高めます。町並みの維持のため、伝統的町並みを構成する建造物の文化財登録を推進します。
措置・関連事業	3-1-1 美術工芸品等の調査（私部）、3-1-2 美術工芸品等の調査（星田） 4-1-4 文化財の指定等の検討（私市おどり）、4-1-5 文化財の指定等の検討（吉向松月窯） 4-1-6 文化財の登録の推進（建造物） 5-1-1 指定等文化財の維持管理の促進 8-1-2 「星田文化財保存活用区域」めぐり 10-1-3 文化財の公開（北田家住宅）、10-1-4 文化財の公開（山添家住宅） 10-1-5 文化財の公開（山野家住宅）、10-1-6 文化財の公開（神祖宮趾之碑） ★11-1-5 新宮山周辺の文化財体験授業（観光・商業団体・地区等との連携） 12-1-1 交野木綿のPR、12-1-2 私市おどりのPR、12-1-3 吉向松月窯のPR（交野ブランド化） 16-1-3 文化財講座の開催（新宮山等）

テーマ⑥近代産業と鉄道の発展（目的：歴史的建造物の保護と周知）

項目	内容
保存・活用の課題	交野市立教育文化会館（旧・交野無尽金融株式会社本社屋）をはじめとし、近代化において重要な役割を果たした建造物群、跡地、織機（模型）などが残りますが、市民の認知度は低く、有効に活用できていないことが課題です。
保存・活用の方針	交野市立教育文化会館は、交野の近代化を伝える建造物であると同時に、市の数少ない展示施設として内容等を見直し、魅力を高めます。また、倉治地区の豪傑と呼ばれた金澤泰治氏をはじめとした人物を紹介する展示や講座などのイベントを実施することにより周知・普及をはかります。
措置・関連事業	★ 9-1-1 教育文化会館の保存修理 ★11-1-6 近代洋風・和風建築の体験授業（観光・商業団体・地区等の連携） 16-1-4 文化財講座の開催（教育文化会館と金澤泰治等）

7-3. 文化財保存活用区域で実施する措置

第6章で設定した2つの「文化財保存活用区域」に関する保存・活用の課題と方針、関連事業を示します。この2地区の保存・活用については、両地区とも室町時代の伝承が残り、江戸時代以降の歴史的町並みを残すなど、互いに深い関係があるので、事業も両地区を関連づけて実施することを目指します。

(1) 私部文化財保存活用区域の活用の方向性

■ 保存・活用の課題

私部地区内には、文化財が集中して分布しています。それらの文化財の総合案内、周遊コース・誘導サイン・説明板の設置などの利用者の利便性の向上、文化財に関する情報提供などの利用促進の方策の実施が課題です。

■ 保存・活用方針

京阪電鉄交野市駅からの周遊コースや、倉治地区にある歴史民俗資料展示室までのコースを設定し、そのルートの誘導サインや文化財の説明板の設置の検討を行います。

特に、戦国時代末期の私部城に関しては、これまでの周辺の寺院との説明に加え、安見氏に関する軍記物語や歴史小説などの紹介にもつとめ、市内外の人たちの興味・関心を喚起するための取組みを進めます。

近世においては、重要文化財の北田家住宅の活用にむけて、私部地区の古文書調査を行います。山野家住宅を含む私部の伝統的な町並みを周遊・見学するコースを設定して、見学者の利便性を図ります。

【関連事業】

★…重点事業

措置・関連事業	事業名	内容
3-1-1	美術工芸品等の調査（私部）	区域に残る古文書や民俗資料の調査を行います。
5-1-1	指定等文化財の維持管理の促進	指定等の建造物について維持管理を促進します。
7-1-3	私部城跡を活用した親子体験教室	私部城跡での戦国体験等から「交野の歴史文化」に触れる機会を設けます。
8-1-1	「私部文化財保存活用区域」めぐり	区域内を巡回するスタンプラリーを実施します。また、体育指導員と連携し私部地区のノルディックウォークを実施します。
10-1-2	文化財の公開（私部城跡）	市指定文化財の私部城跡の公開を進めます。
10-1-3	文化財の公開（北田家住宅）	国指定重要文化財北田家住宅の公開を進めます。
10-1-5	文化財の公開（山野家住宅）	国登録文化財山野家住宅の公開を進めます。
★11-1-4	私部城跡周辺の文化財体験授業	かたのツーリズムと観光協会や商業連合会が共同で室町～江戸時代にかけての体験授業を星田地区と連携して実施します。
13-1-1	周遊コースの設定（私部）	保存活用区域を中心に周遊するコースの設定及びパンフレットの作成を行います。
13-2-1	案内板等の設置（私部）	区域や周遊コースを巡回するために必要な案内板等の設置を行います。
16-1-2	文化財講座の開催（私部城跡等）	私部文化財保存活用区域に関する歴史文化を紹介する文化財講座を開催します。

(2) 星田文化財保存活用区域の活用の方向性

■保存・活用の課題

星田地区内の徳川家康に関連する文化財の周遊コース・誘導サイン・説明板の設置など、利用者の利便性の向上や家康関連の伝承地等の情報提供など、利用促進の方策の実施が課題です。

■保存・活用の方針

JR 学研都市線星田駅や京阪バス妙見口停留所を含む周遊コースを設定し、そのルートの誘導サインや文化財の説明板の設置の検討を行います。特に星田地区では徳川家康とのつながりが深く、家康関連の歴史資料や伝承のPRを推進します。また、活用の前提として、関係する古文書調査や民俗調査を進め、文化財の保存対策も行います。

【関連事業】

★…重点事業

措置・関連事業	事業名	内容
3-1-2	美術工芸品等の調査（星田）	区域に残る古文書や民俗資料の調査を行います。
8-1-2	「星田文化財保存活用区域」めぐり	区域内の徳川家康関連の伝承地等を巡回するスタンプラリーを実施します。また、体育指導員と連携し、星田地区のノルディックウォークを実施します。
10-1-7	文化財の公開（仏像群）	市指定文化財の仏像群などの公開を進めます。
★11-1-5	新宮山周辺の文化財体験授業	かたのツーリズムと観光協会や商業連合会が共同で室町～江戸時代にかけての体験授業を私部地区と一緒に実施します。
13-1-2	周遊コースの設定（星田）	区域内の徳川家康関連の伝承地等を中心に巡回するコースの設定とパンフレットの作成を行います。
13-2-2	案内板等の設置（星田）	区域内の徳川家康関連の伝承地等を中心にした周遊コースを巡回するために必要な案内板等の設置を行います。
16-1-3	文化財講座の開催（新宮山等）	星田文化財保存活用区域に関する歴史文化を紹介する文化財講座を開催します。

7-4. 防災・防犯に関する措置

大阪府が定めた『大阪府文化財保存活用大綱』では、文化財の所在や管理状況の把握、災害・盗難等のリスクの把握、予防体制の確立、防災・防犯における設備の充実や意識向上の取組みが重要であるとされます。さらに災害発生時の対応については、被害拡大を可能な限り防ぐために体制整備と役割分担などが求められています。交野市でもこの大綱と整合を図りながら以下の措置を実施します。

(1) 防災に関する措置

本市では自然災害に備え「交野市地域防災計画」を策定しています。災害予防については、「第1章 災害に強いまちづくり 第2節 建築物の安全化 第3 文化財」において、「市は、市民にとってかけがえのない文化遺産である文化財を、災害から保護するため、防災意識の高揚、防災施設の整備等を図る。」とし、「市民に対する文化財防災意識の普及と啓発、所有者等に対する防災意識の徹底、火災に備えた消防用設備等の整備の推進、初期消火体制と自衛消防隊の組織化その訓練の徹底、地域住民、防災関係機関との連携、建造物、美術工芸品保存施設の耐震構造化の促進」を推進するとしています。加えて、文化財はその特性に応じて個別に総合的な防火対策を講じる必要があることから、「国宝・重要文化財（建造物）

等の防火対策ガイドライン」及び「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保存する博物館等の防火対策ガイドライン」に基づく点検の実施や「国宝・重要文化財（建造物）等に対応した防火訓練マニュアル」に基づく実践的な防火訓練を行います。

また、これらの結果を踏まえ、各文化財の特性、管理体制、防火に係る専門的見地からの意見を総合的に勘案して、防火対策の検討・実施を進めます。消防用設備等の整備の推進に際しては、「重要文化財（建造物）等防災施設整備事業（防災施設等）指針」を踏まえます。

災害時の対応については、「地震災害応急対策編 第2章 応急復旧期の活動 第12節 応急教育及び保育対策 第7文化財」では、「指定災害により文化財が被害を受けた場合、所有者（管理責任者）は、被害状況を調査し、交野市教育委員会に報告する。また、市は、被害報告を大阪府教育委員会に報告する。府教委は、被災文化財の被害拡大を防止するため、市教委を經由して所有者又は管理責任者に対し、応急措置をとるよう指導・助言を行う。」としています。

災害予防や災害時の対応については、所有者だけではなく市民や地区住民の理解や協力が不可欠なことから以下の事業を実施することにより防災対策の充実を図り、「交野の文化財」の保存に繋がります。

【関連事業】

措置・関連事業	事業名	内容
6-1-1	防災に関する広報活動	市内の主な文化財の位置を示した「文化財ハザードマップ」やパンフレット等を作成し、市民に対する文化財防災意識の普及と啓発、所有者等に対する防災意識の徹底を図ります。
6-1-2	地区の防災対策の検討	地区住民や消防団等から地区における文化財の防災活動状況等をヒアリングにより把握し、今後の文化財の防災対策の検討を行います。
6-1-3	文化財防災マニュアルの活用	被災時には文化財防災センター刊行のマニュアルを活用し対応します。

（2）防犯に関する措置

指定等文化財の防犯対策については、文化庁作成の「防火・防犯対策に関するチェックリスト」を活用した点検、その結果を踏まえた防犯対策の検討、防犯設備の向上を促します。また、不審な状況があった場合は、毀損状況の確認、台帳と照合し、備品の亡失確認を行います。そして文化財の所有者（管理責任者）は、毀損・窃盗の事実が確認された場合は、速やかに警察及び市教育委員会へ連絡すると共に、可能な範囲で復旧の道を模索します。毀損による修復や修理が必要な場合は、市教育委員会・専門家と協議し、修復を検討します。

地区単位の文化財の防犯対策については、所有者だけではなく、市民や地区住民にも期待が寄せられることから、次の事業を実施することにより防犯対策の充実を図り、「交野の文化財」の保存に繋がります。

【関連事業】

措置・関連事業	事業名	内容
6-2-1	文化財の見守り活動の促進	これまでの文化財保護委員だけでなく、市民や地区住民による「文化財パトロール」を実施し、防犯活動の促進を図ります。
6-2-2	防犯に関する広報活動	市民に広報等を通して、指定等文化財だけでなく、未指定の仏像や備品の窃盗、建物の毀損などの被害等を周知し、文化財が犯罪リスクに晒されていることへの理解を高めます。